

トランプ大統領誕生。米国の分断社会のおぞましさは雇用の劣化と生活苦

新社会党千葉県議員団視察報告 ①

明石市の野心的な子育て行政 普遍的福祉が人口と税収増の好循環

明石市 301万円、姫路市 724万円、加古川市 764万円、神戸市 790万円。近隣市とくらべて明石市は 420万円から 490万円も負担が低い。

これは 9月から第 2子から幼稚園を含めた保育料無料化を始めた明石市の広報紙に掲載された数字。子ども 3人で、母と父の年収がそれぞれ、250万円、450万円の場合の比較。

それだけではない。明石市は医療費も中学校 3年生まで無料。こ

れによる家庭の負担軽減額は、神戸市とは 12万円、加古川市 18万円、姫路市とは 41万円だ。比較基準は父の年収 450万円、妻はゼロ、子ども 3人だ。

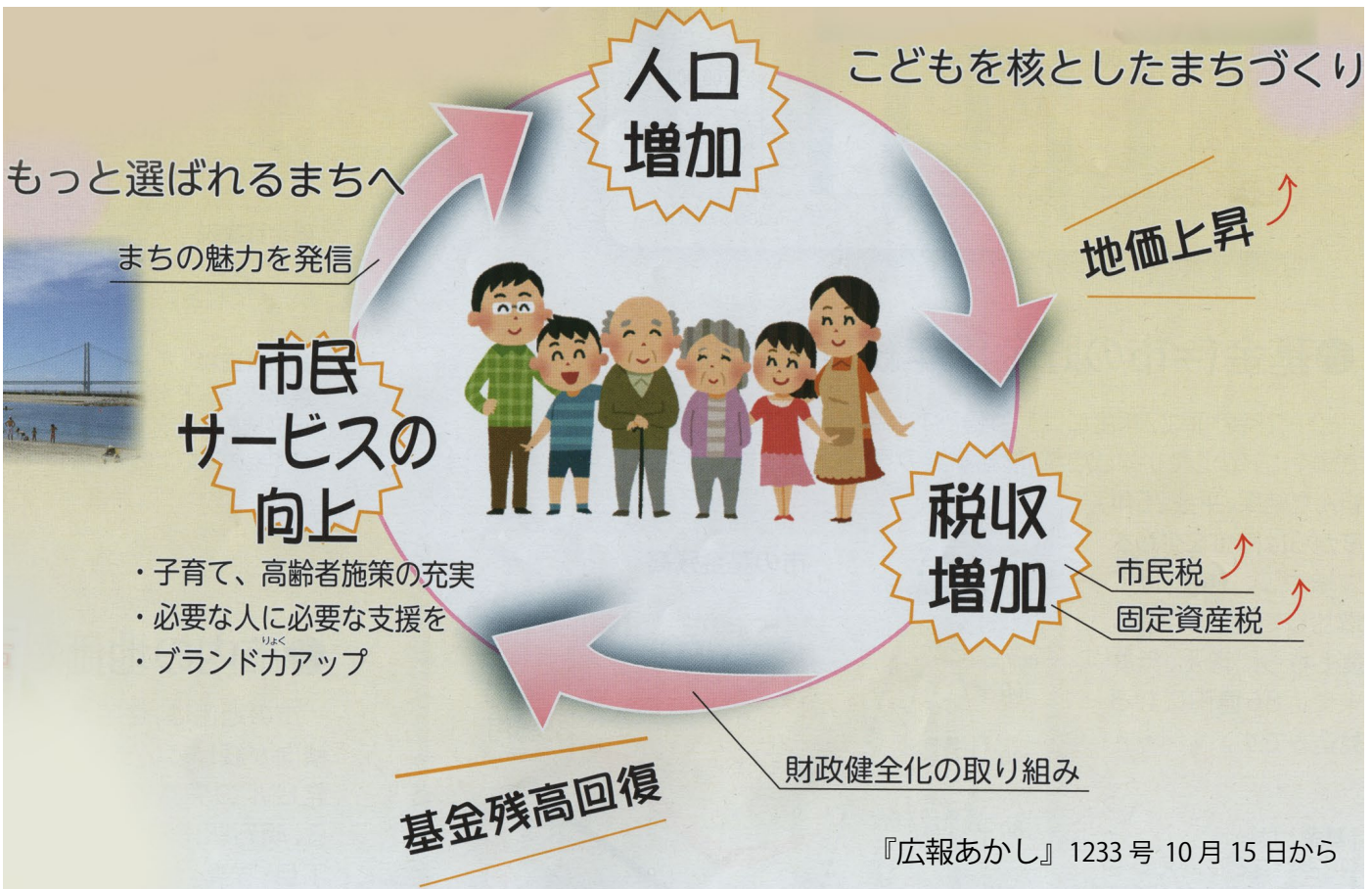
つまり、子育てするなら、子どもがたくさんほしいのなら、明石市がお得ですよという、近隣市が悲鳴を上げる内容。これが市の広報紙に掲載されている。

このように挑戦的な（近隣市にもだが、根本的には旧来の福祉行政）子育て政策を進めているのは

昨年 4月に 2期目に入った泉房穂市長（53歳）だ。

弁護士出身の泉市長は、2003年に民主党公認で、衆議院議員に当選したものの、05年に落選。しかし、11年の市長選で自民、民主推せんの元東播磨県民局長を 69票差で破って当選。そこから温めてきた普遍的な福祉にまい進する。

泉市長は制限的福祉は格差を前提とし、それを繕うにすぎないと看破し、所得制限をしない普遍的福祉を志向する。 2面に続く



『広報あかし』1233号 10月15日から

1面からの続き

「格差と貧困」による社会的分断が強く認識され、特にリーマンショック以降、多くの社会学者がこれまでの成長を前提とした所得制限を伴う福祉から、ユニバーサルな普遍的福祉を提言している。

しかし、それを頭でわかって、実際に行政で行うには、これまでしみついた福祉感が抵抗を示す。ばらまきではないか、財源はどうするのだ、自立できないのは努力が足りない・・・と。

泉市長は学生時代からの思いや、弁護士としてかかわってきたことからその実現に足を踏み出している。それが前述の所得制限なしの子ども医療費無料化（1期目で実施）であり、関西初の第2子からの保育料無料化だ。

その結果、実際

に人口が減っていた明石市が、関西で唯一、人口増に転じ、市の貯金である基金残高を増やし始めたのだ。つまり、子育て施策と地価の安さ、そして通勤通学が便利の3点セットで、1面の図にあるような好循環を生み出したのだ。

実際にこの3年半の人口の社会増減は、9歳以下が447人増、20代が839人増、30代が803人増で、他はいずれも減少している。つまり子育て世代の転入が数字となってあらわれている。

泉市長はいつてみれば社会実験に成功した。その上、今年度から県内初の小学校1年生の30人学

級を開始。県内大・中都市では意外と行われていない中学校給食も今年度から試行を始めている。

3年後に市制施行100周年を迎える明石市は、2年後の4月から中核市に移行する。それに伴い、「トリプルスリー」という市制100周年に向けた数値目標を掲げている（図参照）。

それは人口30万人（今年10月29万4千人弱）、出生数3千人（14年2570人）、図書貸出冊数300万冊（同、220万冊）だ。

貸出冊数達成のために、明石駅前



市役所機能を、市民図書館と子ども図書館、そして高齢者の包括支援センターの子ども版である、子ども広場に置き換えた。それぞれオープンを間近にしている。

もちろん、急激な若い世代の転入は保育所不足のデメリットも生んでいる。今年の2月1日時点の待機児童は464人で、県内で最も増加した。そのため、今年度中に1000人分の受け入れ枠の増加を図っている。保育士確保の不確実要素はあるが、現在人的にはめどが立ったとのことだ。

確かに「こどもを核にしたまちづくり」「こどもに手厚いまち」と

して、まちづくりの好循環に入っている明石市だが、その最初に投じた財源はどうやって生み出したのか。子ども医療費の無料化でも年間14億5千万円（市負担は11億円）かかるのだ。

一つは公共投資のスローダウンであり、優先順位の入れ替えである。それらは納得のいくものである。

問題は職員人件費の削減である。神戸市と同じ10%の地域手当を6%に下げ、正規職員を減らし続けていることだ。職員のモチベーションがいつまで続くのか不安がある。

しかし、野田市はすでに人件費削減を徹底してやってきた。しかし、従来の発想の制度で削減分を使い果たしている。

野田市との住みやすさの違いに公

共交通機関の利便性がある。明石市は、明石駅からJRの新快速で神戸市三宮まで15分、大阪は37分、逆方向の加古川までは13分、姫路には24分と、絶好の通勤・通学環境である。その割に地価が安いとなれば移り住みたいまちになる。

ただ、野田市でもつくばエクスプレスを使えば、秋葉原までは1回乗り換えだが、梅郷からは34分、愛宕から39分（いずれも快速利用、乗り換え時間は入っていない）だ。

このレポートは9日の行政視察で学んだもの。8日の加西市の報告は次号で。